



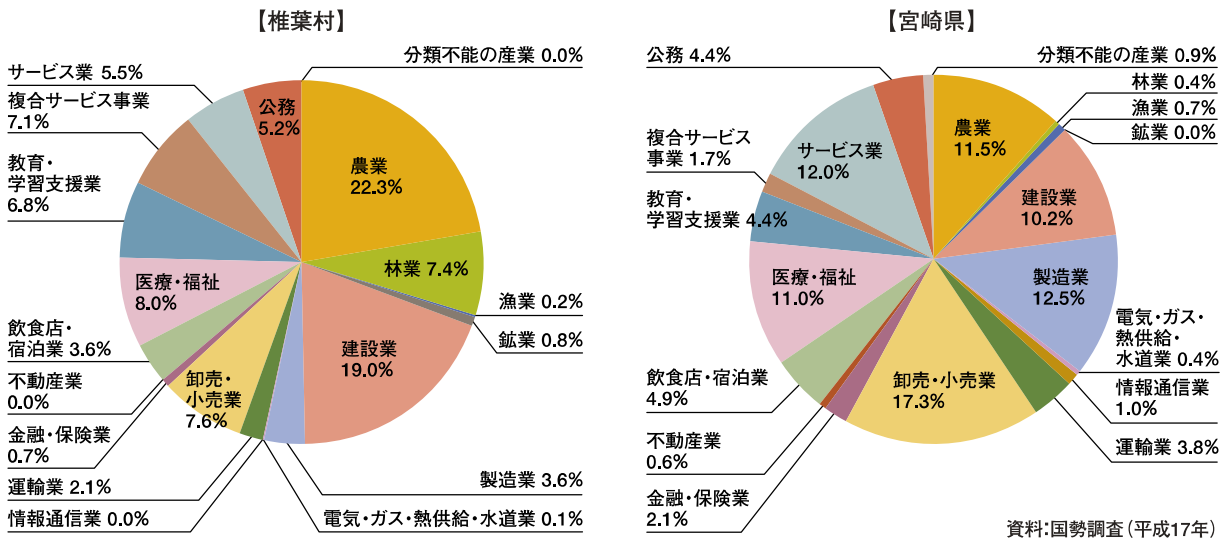
(3) 産業

① 産業構造

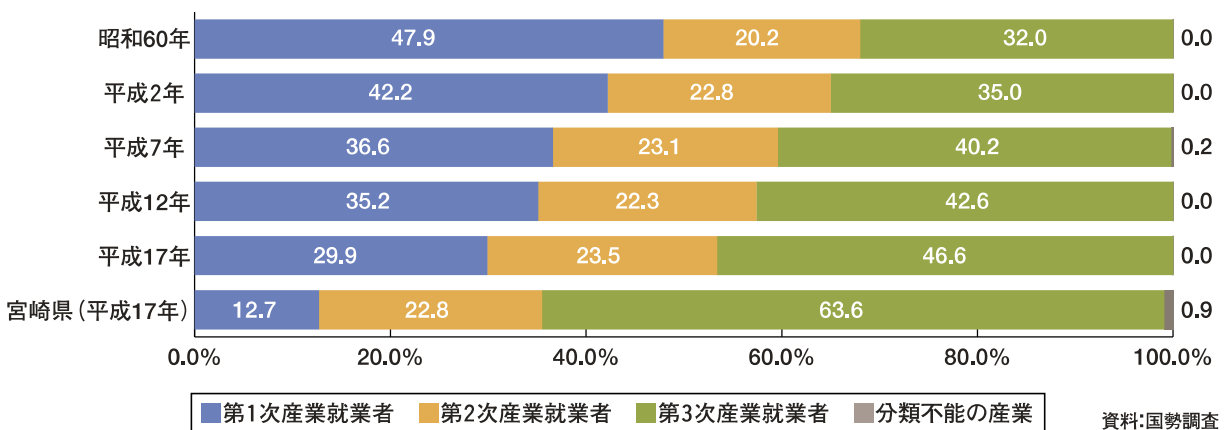
産業構造をみると、本村では「農業」「建設業」がともに約2割となっており、宮崎県と比べても比較的高い割合を占めています。

また、産業別就業者人口比をみると、昭和60年以降、第1次産業就業者が減少し、第3次産業就業者が増加し続けているものの、宮崎県と比較すると第1次産業の就業者割合は高いといえます。

産業構造



産業別就業者人口比の推移



- ※1 第1次産業(グラフ中):産業のうち、農業・林業・水産業など直接自然に働きかけるものをいう。
- ※2 第2次産業(グラフ中):産業のうち、地下資源をとりだす鉱業と、鉱産物・農林水産物などをさらに二次的に加工する工業をいう。工業には製造業と建設業とが含まれる。
- ※3 第3次産業(グラフ中):商業・運輸通信業・サービス業など、第1次・第2次産業以外のすべての産業を指す。

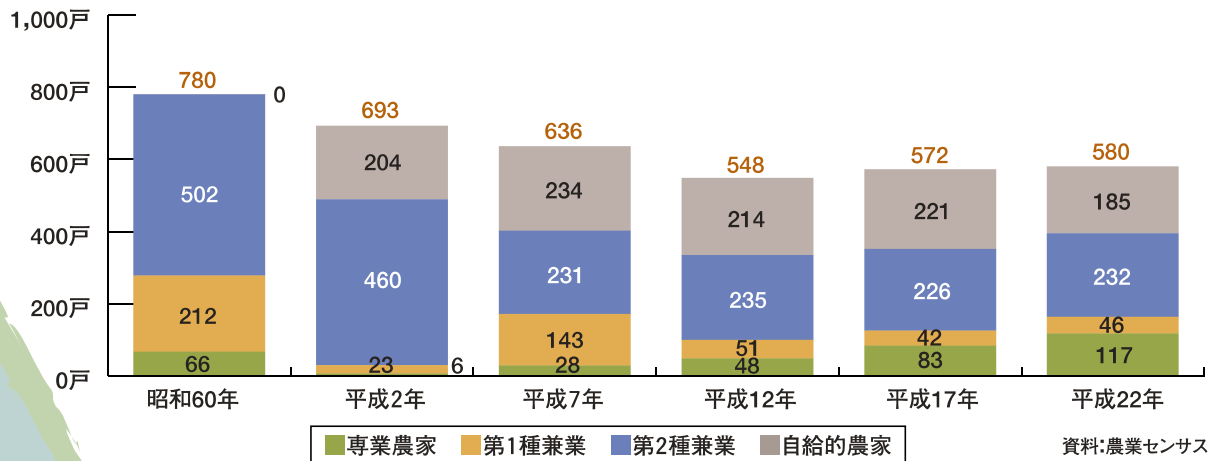
②農林畜産業

農業については、農家数は専業・兼業ともに減少しているものの、近年では自給的農家が比較的大きな割合を占めています。また、経営耕地面積は昭和60年以降減少しているものの田・畑の面積は維持されており、農作物はミニトマト・ホウレンソウを中心に近年販売高が上昇しています。

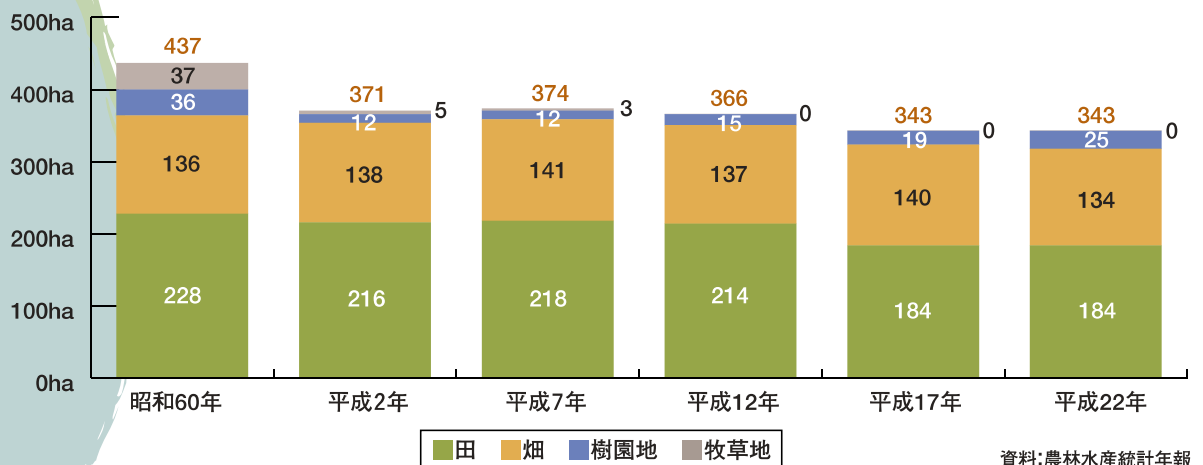
林業については、林家数は年々減少しているものの、特用林産物生産は平成17年から平成22年にかけて増加しています。

畜産業については、セリ出荷頭数は増加していますが、価格は村平均・郡平均ともに低下しつつあります。

農家数の推移



経営耕地面積の推移

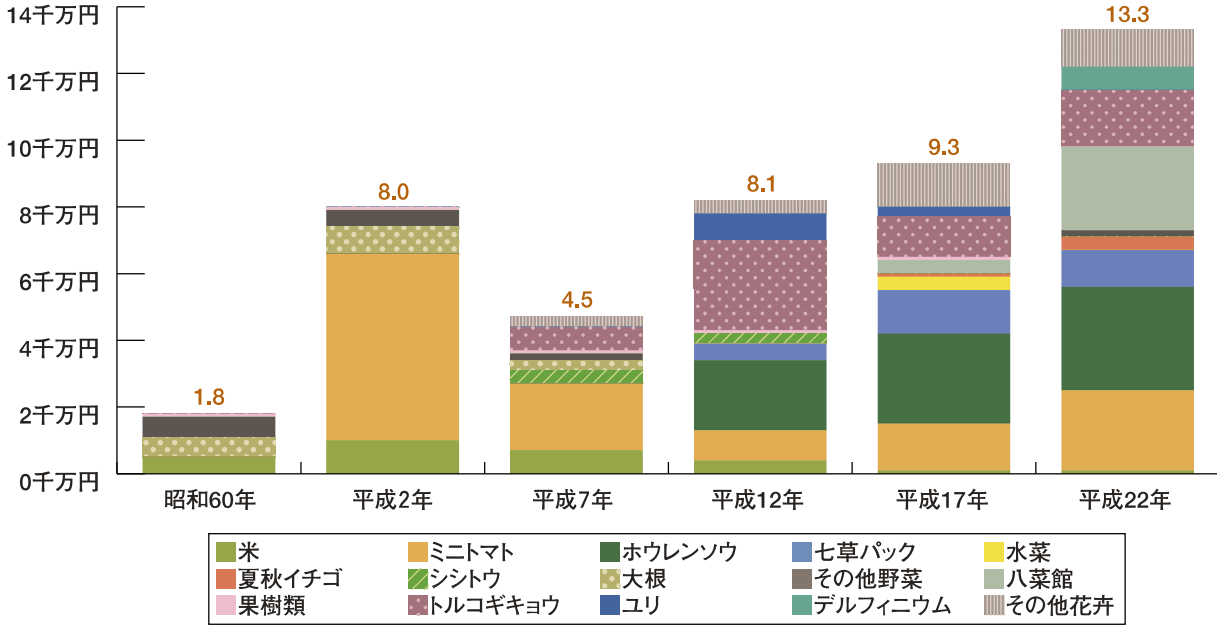


※1 専業農家(グラフ中): 自家の農業収入だけで生計を立てている農家。

※2 自給的農家(グラフ中): 経営耕地面積が30アール未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家。

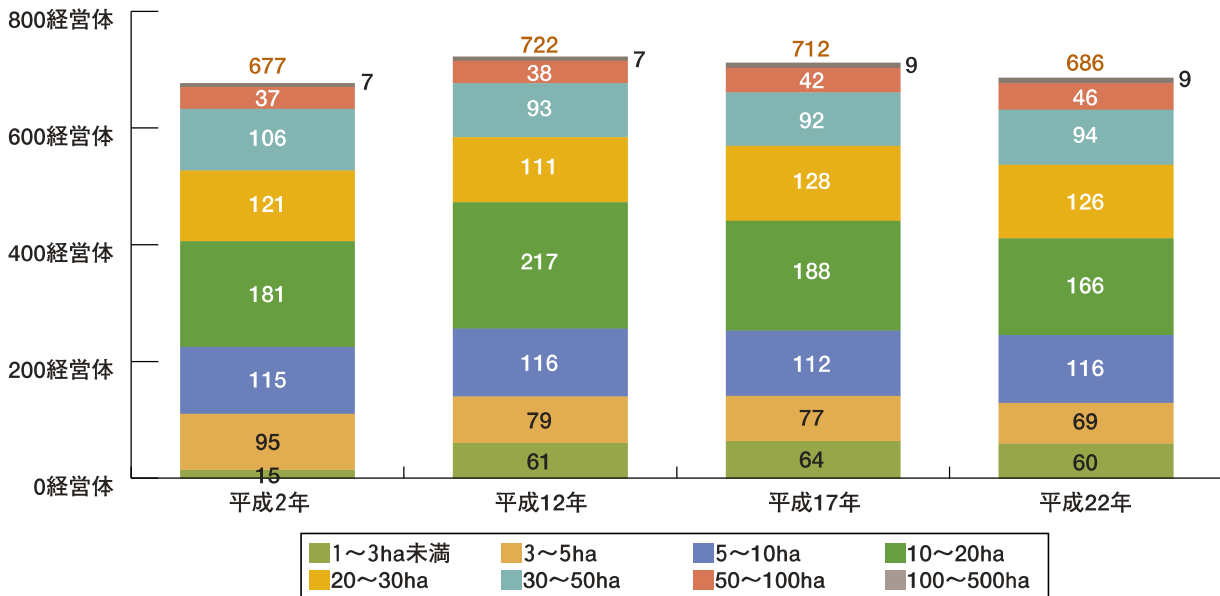


農作物の販売高 (JA出荷分) の推移



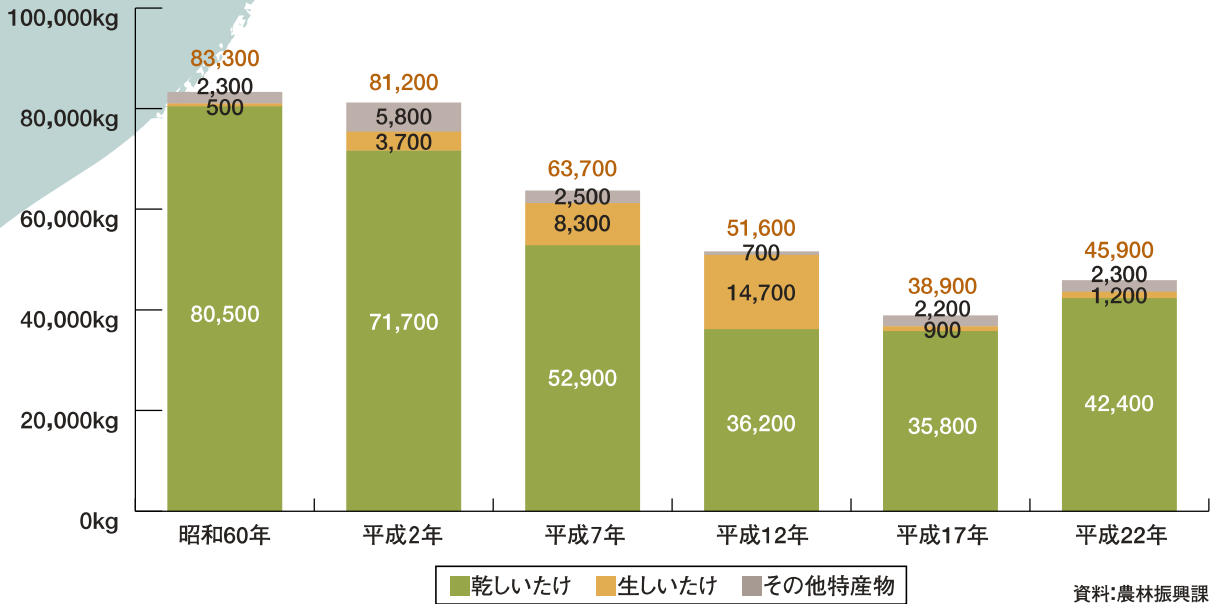
資料:農林振興課

保有山林面積規模別林家数の推移

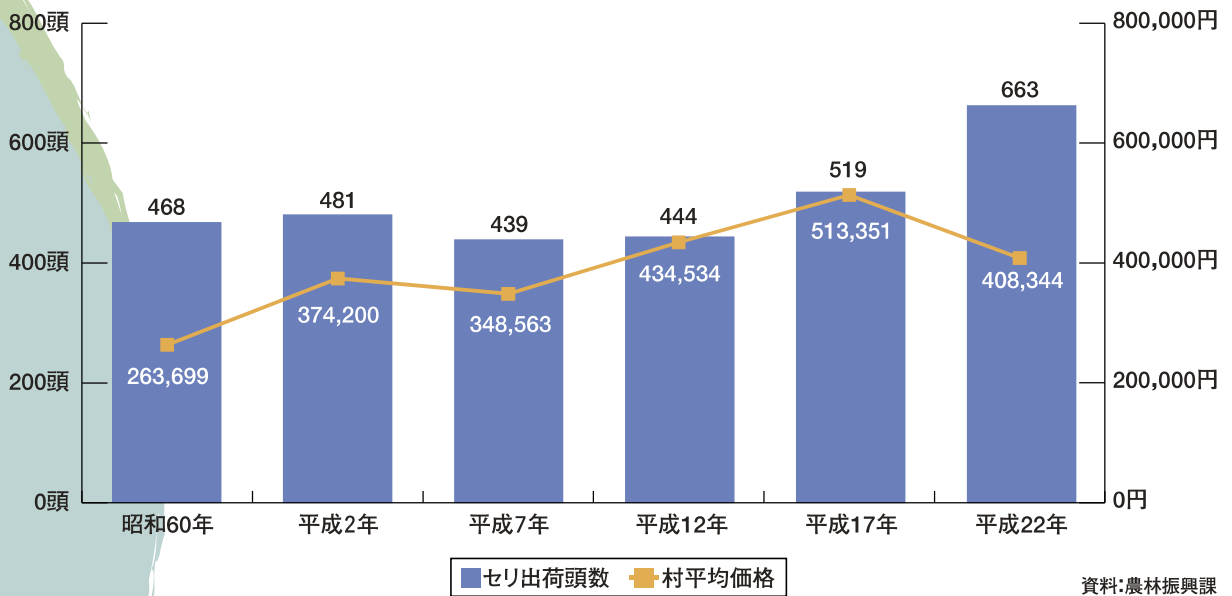


資料:農林業センサス

■ 特用林産物生産の推移



■ セリ出荷頭数及び平均価格の推移





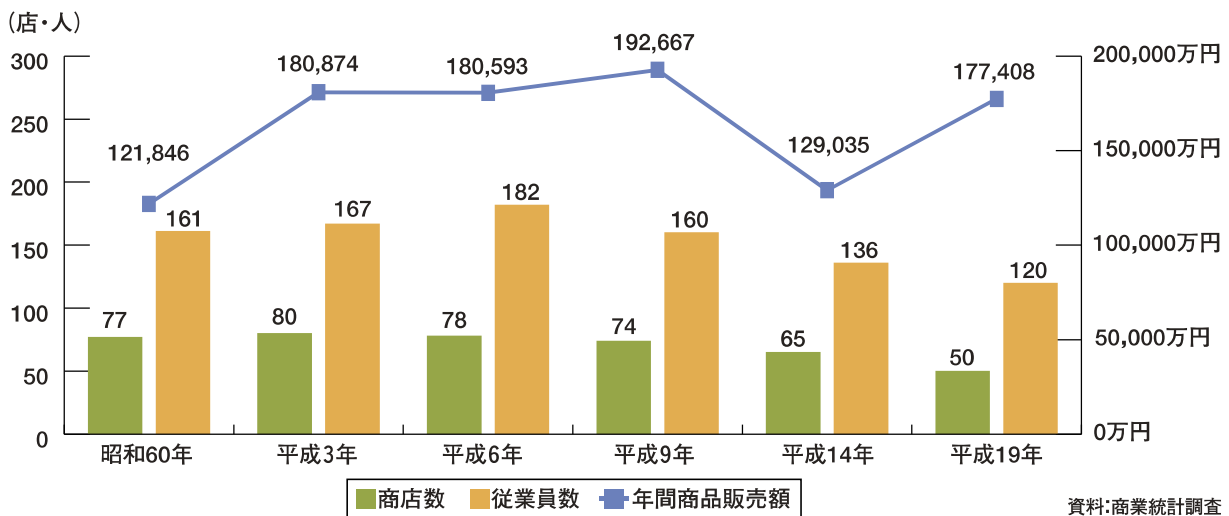
③商工観光業

小売業については、商店数・従業員数ともに減少しており、商品販売額も低下しつつありましたが、近年ではやや増加しています。

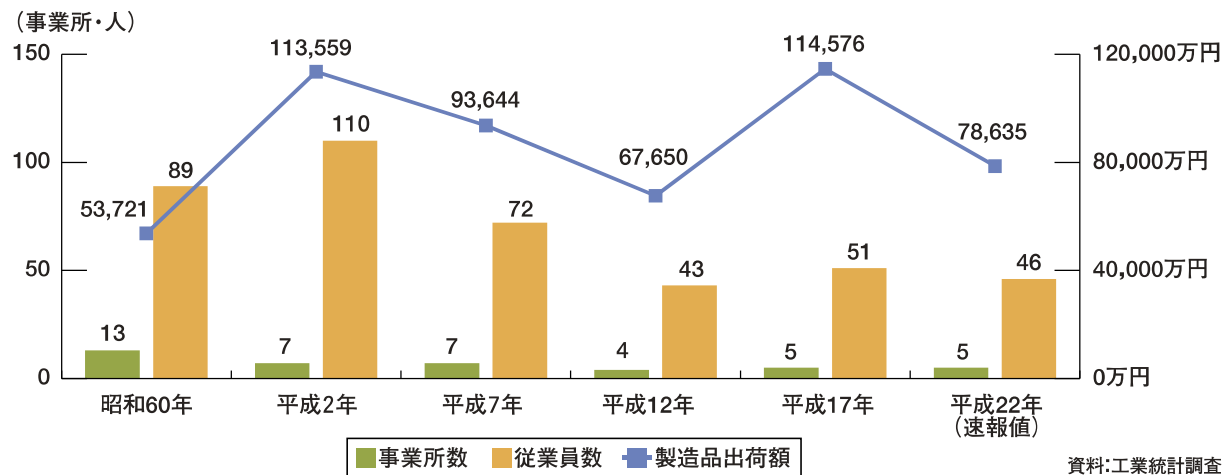
工業については、事業所数はほぼ横ばいで推移しているものの、製造品出荷額は増減を繰り返しています。

また、観光については、入込客は増減を繰り返しつつも近年では80,000人前後で推移しており、日帰り客が宿泊客を上回っています。

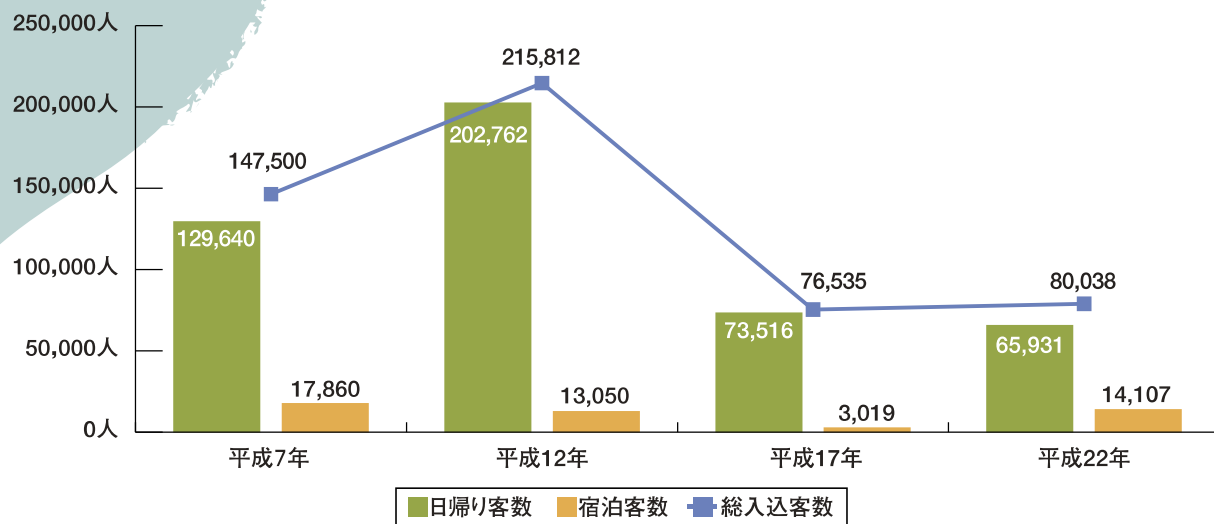
■小売業の推移



■工業の推移



■観光入込客数の推移



資料:地域振興課





(4) 生活環境

道路については、各道路において整備が進められているものの、国道・県道以外の改良率及び舗装率は低い状況にあります。また、水道については、給水世帯・人口ともに昭和60年以降、横ばいもしくは微減傾向となっており、普及率も2〜3割にとどまっています。

平成21年に整備された光ファイバー※1網について、現在、かて〜りネット※2の加入者は1,457人で、そのうちインターネット※3の加入者は279人と加入率は約2割となっています。

■ 国道・県道の整備状況(平成23年4月現在)

区分	路線名	総延長(m)	改良率		舗装率	
			延長(m)	率(%)	延長(m)	率(%)
国道	265号線	58,216.4	19,903.1	34.2	58,216.4	100.0
	327号線	14,790.2	2,953.1	20.0	14,790.2	100.0
	388号線	29,276.6	1,056.4	3.6	29,276.6	100.0
県道	上椎葉湯前線	26,796.7	2,510.1	9.4	26,796.7	100.0

資料:建設課

■ 村道・林道の整備状況(平成23年4月現在)

区分	路線数	総延長(m)	改良率		舗装率	
			延長(m)	率(%)	延長(m)	率(%)
村道	458路線	478,496.7	13,746.7	2.9	265,183.2	55.4
林道	33路線	230,221.5	22,432.5	9.7	133,521.2	58.0

資料:建設課

■ 簡易水道普及率と利用状況

単位:m³、%

	給水		普及率		排水量	有収水量	有収率
	世帯	人口	世帯	人口			
昭和60年	390	989	25.1	19.0	204,400	163,520	80.0
平成2年	395	842	27.2	17.8	210,180	168,144	80.0
平成7年	381	956	28.5	23.0	240,900	184,170	76.5
平成12年	418	822	31.7	21.8	228,125	172,924	75.8
平成17年	399	785	31.4	22.2	196,384	165,359	84.2
平成22年	373	737	26.8	22.9	155,893	134,249	86.1

資料:税務住民課、建設課

※1 光ファイバー:ガラスやプラスチックの細い繊維でできている光を通すデータ通信ケーブル。

※2 かて〜りネット:村内全域に敷設されている光ファイバー網など情報通信網の愛称。

※3 インターネット:世界中にある複数のネットワークを相互に接続することで構築された、巨大なコンピューター・ネットワーク。

■かて～りネット※1・インターネット※2の加入状況

年度	区分	加入者数(人)	加入率(%)
平成23年3月31日	かて～りネット	1,436	-
	インターネット	230	16.0
平成23年11月1日	かて～りネット	1,457	-
	インターネット	279	19.1

資料:地域振興課

(5) 財政状況

健全化判断比率とは「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づいて算出する四つの比率で、財政の健全化や再生の必要性を判断するものです。この比率のうちどれか一つでも基準を超えると財政健全化計画等を策定し、財政の健全化を図らなければなりません。

椎葉村健全化判断比率は、いずれも基準を下回っており、また、県内の他の自治体と比較しても健全な状態であるといえます。

■健全化判断比率の推移

単位:%

		実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
実績	平成19年度	-	-	16.8	59.7
	平成20年度	-	-	17.0	22.2
	平成21年度	-	-	16.1	13.8
	平成22年度	-	-	14.3	18.9
基準	早期健全化基準値	15.0	20.0	25.0	350.0
	財政再生基準値	20.0	40.0	35.0	

※実質赤字額または連結実質赤字額がない場合は「-」と表示。

資料:総務省 健全化判断比率・資金不足比率の概要

□実質赤字比率

福祉、教育、まちづくり等を行う地方公共団体の一般会計等の赤字の程度を指標化し、財政運営の深刻度を示します。

□連結実質赤字比率

公営企業会計を含むすべての会計を合算し、地方公共団体全体としての赤字の程度を指標化し、地方公共団体全体としての財政運営の深刻度を示します。

□実質公債費比率

借入金の返済額及びこれに準じる額の大きさを指標化し、資金繰りの危険度を示します。

□将来負担比率

地方公共団体の一般会計等の借入金や、将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高の程度を指標化し、将来的に財政を圧迫する可能性の度合いを示します。

※1 かて～りネット:村内全域に敷設されている光ファイバー網など情報通信網の愛称。

※2 インターネット:世界中にある複数のネットワークを相互に接続することで構築された、巨大なコンピューター・ネットワーク。

夢 生きがい 幸せ
かて〜りの里・椎葉

基本構想

第2章 ■ 椎葉村の概要

